

出張報告書

柴田研究室 D1 佐々木裕之

滞在研究期間：佐々木；2018/3/5~2018/3/10

滞在大学：Bonn University

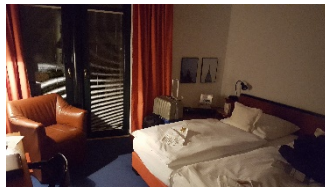
交流・研究概要

3/5(月)

06:10 羽田空港発。同日 15:40（現地時間）フランクフルト空港に到着。電車を乗り継いでボンに到着。ホテル周りの町並みを見学する。



フランクフルト空港



ホテル内



ボン市内

3/6(火)

4th core-to-core symposium に参加。

この日に私は1分間のショートトークとポスターセッションを行う。

数多くのディスカッションを行うことができたが、特に印象的だったのは、水溶性食物繊維の“イヌリン”が何の食物に多く含まれているのかという質問であった。キクイモ（Jerusalem artichoke）やゴボウ（Burdock）に多く含まれていると回答したが、やはりドイツでは馴染みのない食物らしく、文化の違いで回答方法を変えたほうが良かったのかなと思った。

3/7(水)

シンポジウム2日目。

私自身が行っている研究内容とほぼ似たような研究を行っている Irmgard Forster 先生とコミュニケーションを取る。



Irmgard Forster 先生とディスカッション

シンポジウム後は生命医科学研究科の人たちと食事会に参加する。



食事会の写真

3/8(木)

シンポジウム3日目。

シンポジウム後は歴史館である“Haus der Geschichte”に案内してもらい、館内を見学。ドイツの歴史について学ぶ。

3/9(金)

ボン市内を観光。

ベートーヴェンの生家やお墓を見学。その後、フランクフルト空港へ向かい17:45 出国

3/10(土)

17:25 成田空港着

交流総括

【佐々木裕之】

今回のシンポジウムに参加することで生物学だけでなく、化学分野や機械分野、バイオインフォマティクスなど様々な分野の発表を聞くことができ、とても勉強になりました。また、自身の知識不足により、発表の理解に苦しむ点もあり、もっと幅広い視点を持って研究に臨む必要があることを痛感しました。ポスターセッションにおいても普段ディスカッションする機会のない分野の方々とディスカッションをすることができ、良い刺激を得られるとともに、異なる研究分野の方々に自身の研究を伝えることの難しさを感じました。また、自身と同様の腸内細菌に関する研究を行っている、Irmgard Forster 先生とディスカッションをする機会を得ることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

私自身、何度か海外での発表を経験しておりますが、今回のシンポジウムで改めて、自身の知識不足を感じ、英語でのディスカッションの難しさを痛感しました。今後も幅広い視点を持ちつつ、英語力を磨き、研究者としての成長につなげたいと思います。